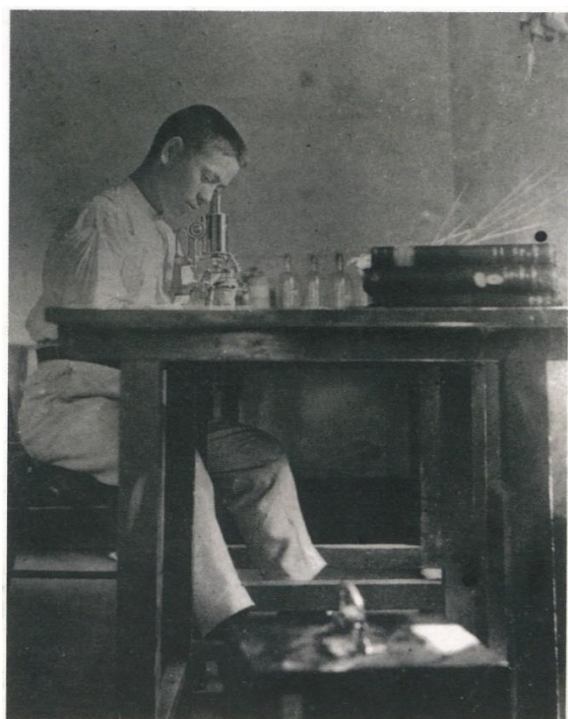


第 93 回企画展

「小麦農林 10 号」生誕 90 年

「緑の革命」をもたらした半わい性コムギ品種の誕生と
岩手県における作物品種改良の現在



育成者 稲塚権次郎

写真協力：千田篤氏（『世界の食糧危機を救った男
稲塚権次郎の生涯』著者）
石川県公立大学法人石川県立大学
社団法人家の光協会



本 場 職 員

岩手県立農事試験場本場（上）

岩手郡本宮村大字向中野（現、盛岡市向中野）

昭和 6 年の岩手県立農事試験場本場職員（下）

（岩手県立農事試験場 30 周年記念成績彙集より）

令和7年3月 16 日（日）～6月1日（日）

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

昭和 10（1935）年、ある背の低いコムギに「小麦農林 10 号」という品種名がつけられました。この品種は、岩手県立農事試験場におかれた農林省指定小麦地方的試験地で、農林省派遣の地方農林技師・稲塚権次郎と県農林技手・浅沼清太郎により育成されました。

「小麦農林 10 号」は国内ではあまり広まりませんでした。昭和 21（1946）年アメリカに渡り交配親として使われ、半わい性（背は低いが穂が大きくなる性質）・多収の品種を生み出しました。このアメリカ品種育成途中の実験材料は、1953 年にメキシコに譲られ現地の品種と交配され、1962 年に「ピティック 62」、「ペンハーモ 62」等の半わい性・多収品種を生み出しました。

「小麦農林 10 号」の子孫品種群は化学肥料を多く与えても倒れないため、メキシコだけでなく、パキスタン、インド等の国々でコムギ収穫量を飛躍的に増加させ、多くの人々の命を救いました。これが「緑の革命」です。メキシコ系半わい性コムギ品種群を育成した N.ボーローグ博士は、その功績により農学者として初めて 1970 年にノーベル平和賞を受賞しました。

本企画展では「小麦農林 10 号」生誕 90 年を記念して、当時の貴重な研究資料の展示と、半わい性を活用した岩手県の作物品種改良の現在を紹介します。



農林省指定小麦地方的試験地
小麦地方的試験地の風景（昭和 6 年ごろ）
（岩手県立農事試験場 30 周年記念成績彙集より）



「小麦農林 10 号」の特性を伝える
新聞記事（昭和 11 年 4 月）
（岩手県農業研究センター図書室蔵）

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30（入館は16:00まで）※3 月中は 9:00～15:30（入館は 15:00 まで）

休 館 日／月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）

入 館 料／一般320円 学生150円 高校生以下は無料 団体割引等（20名以上）があります。

障害者手帳などの交付を受けている方及び介護サービス事業などで入館される方は
入館料が無料になります。

駐 車 場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台